夜の通り（ぽけっとした作品）

誰も彼もが足早に流れてゆく往来
誰も彼もがすれ違う人のいちいちに身構える
男はその流れの中に棒杭のように立ち止まって
呆けたように夜空を見上げている
地上は明る過ぎて星はただひとつだけ見える
誰も彼も上を見ようとはせず
苛立ちつつも全てを諦めて歩き
あるいは俯いて苦痛をむさぼって陶酔する
男は結局のところ流れに逆らい
ひとりよがりに己を流心と見なして
流れる頭なぞは全くの無意味との判断か
ただただ口開けて星を見つめるよ

(1982.5.22)